

飼い主のいない猫等の不妊去勢手術推進事業 を活用した多頭飼育支援の事例

事例1

○居住者：飼い主（女性、70代）、息子（40代）

○居住環境：賃貸/アパート

○猫の総数：18頭（オス8頭、メス10頭）

概要

- ・4年前に迎え入れた1頭のメス猫が繁殖を繰り返し、現在の頭数に増えた。
- ・民生委員から家庭動物啓発センターに相談があり、事実発覚。
- ・センター職員が現地を訪問し、飼い主に手術の必要性を説明。手術の費用負担が経済的に困難であることから、支援開始となった。
- ・複数の動物関係団体の協力もあり、全18頭の手術を2日で終える。
- ・猫は飼い主が全頭飼養を継続している。センターからはトイレを増やすこと、譲渡などで猫の頭数を減らすこと等を指導。手術後はオス猫のスプレー行動がなくなり、室内の悪臭も改善された。

Before



一斉捕獲

After



トイレの増設



手術完了！

事例2

○居住者：飼い主（女性、60代）

○居住環境：持ち家/戸建て

○猫の総数：11頭（オス6頭、メス5頭）

概要

- ・近隣住民から家庭動物啓発センターに相談があり、発覚。
- ・飼い主は庭で給餌しており、庭に多数の猫が居ついていた。
- ・どのように手術に取り組みれば良いかわからず、また経済的にも手術が困難であったため、猫が繁殖を繰り返していた。
- ・飼い主だけでは猫の管理もままならない状況であったが、近隣住民が協力を申し出てくれたことにより、支援開始を決定。開始後すぐに庭の清掃やトイレの設置を行った。
- ・現在も近隣住民の協力を得ながら、猫の管理（清掃や給餌）を行っている。

Before



庭に居ついた猫たち

After



庭の清掃・トイレの設置



手術完了！

ちょっと



身近に 心配な猫の飼い主さんいませんか？

～飼い主のいない猫等の不妊去勢手術推進事業のご案内～

福岡市は、(一社)福岡市獣医師会や動物愛護関係団体と協働で、市内の猫の多頭飼育者に対する不妊去勢手術の無償支援を行っています。

飼い主さんが高齢であったり経済的に困窮している場合は、動物の適正な飼育管理が難しいことが多く、多頭飼育崩壊のリスクも高まります。

自宅訪問などの際に、気になる飼い主さんはいませんか？チェックリストに1つでも当てはまっていれば、多頭飼育崩壊に陥る(またはすでに陥っている)可能性があります。

猫の飼育状況

- ☐ 不妊去勢手術をしていない猫が複数頭いる。
- ☐ 半年～1年の間に数が増えている(仔猫が産まれている、野良猫を保護しているなど)。
- ☐ 猫が放し飼いにされている(家の内外を自由に出入りしている)。

衛生環境

- ☐ 糞や尿、食べ残しなどの掃除が滞り、不衛生な状態になっている。
- ☐ 害虫やねずみが多数発生している。
- ☐ 近隣住民から飼育状況に起因する苦情などがある。



※多頭飼育崩壊とは、飼い主が不妊去勢手術などの適切な処置を行わず動物が無秩序に増えた結果、適正な管理ができず、周辺の生活環境に影響が生じている状態です。

※多頭飼育崩壊を防ぐためには、早期発見・早期対応が重要です。

※猫は年に2～3回妊娠可能で、1回に4～6頭出産します。1頭の猫が1年間で20頭以上に増える可能性もあります。

問い合わせ先

福岡市飼い主のいない猫等の不妊去勢手術推進協議会事務局

(福岡市動物愛護管理センター/家庭動物啓発センター)

住所: 〒819-0005 福岡市西区内浜1-4-22 TEL: 891-1231 (音声ガイダンス③を選択)